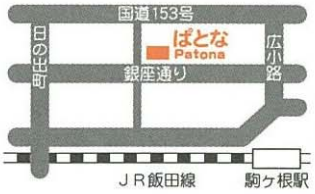
こまがね市民活動支援センター

ぱとなだより

Patona

— 創刊号 —

2010.1



駒ヶ根市中央16番7号
Komagane-shi,chuo,16-7
TEL：82-1150　FAX：82-1151
Mail：kmcenter@cek.ne.jp

（左から）宮澤友子さん、鈴木所長、宮澤事務局長

いつでも、誰でも、相談できるパートナー

センターの愛称名が『ぱとな』に決定！

公募により、市民のパートナーとして
“ぱとな”としました。
大勢の皆さんの応募に感謝致します。

地域に住む外国人と仲良く
【地球人ネットワーク in こまがね】

クリスマス交流会（P-2）

まちにおいでよ
【わいわいワクワク市民の会】

ぱとなで開いた歌声喫茶（P-2）

ナマステ体操ごいっしょに
【チーム・ナマステ】

民族衣装でナマステ体操（P-3）

区の紹介①：五十鈴神社例祭を通じて区民がひとつに
【南割区】

五十鈴神社の大三国の競い（P-4）

地域に住む外国の人々と仲良く

地球人ネットワーク・inこまがね

松沢哉子さん（左）と田中和子さん

「大不況で、職を失う外国人が増え、日本語教室に通う受講生が激減していました。教室に通える人はまだ恵まれています。通えない人こそ問題です」と松沢哉子さん。

「言葉の壁で孤立している」「家に閉じこもっていて、友だちが出来ない」「市報や回覧文書が読めない」など、課題を抱える外国籍住民と交流する中で、生活支援をしようと、前代表の清水敏晴さんが呼びかけ、四年前、ネットワークづくりをしました。

活動は、交流、日本語教室、生活支援を柱に、七夕交流会（在住外国人との懇談会）、在住のタイやフィリピン女性を講師に、タイ料理、フィリピン料理教室、日本料理教室などを開催しました。「ふれあい広場」「ゆかた祭り」に参加し、国際交流を深めました。

バスでごみステーションや北消防署、病院など市内の施設を巡り、生活の習慣やルールに理解を深めました。

日本語教室は福祉センターを会場に火曜日午後、水曜日夜、土曜日午前の週三回。日本語ボランティアの指導で、レベル別三グループに分かれ学習しています。受講生の年代は二十代から五十代まで。国別では中国、フィリピン、ブラジルを中心に九カ国。学習の成果発表の機会にと、スピーチ大会も実施しました。

昨年末、生活に困っている人々を支援しようと市民の協力を得て、米や野菜、乾物、毛布などを配布し、喜ばれました。

松沢さんは「外国語ができなくとも、教えることが不得手でも、外国籍の人々に心を寄せ、できることで支援しようという気持ちのある人はぜひ、一緒に活動しましょう」と呼び掛けています。

代　表・松沢哉子さん
事務局・市社会福祉協議会
電　話・八一―五九〇〇
会　員・五十名

手づくりで中心商店街の活性化に取り組む

わいわいワクワク市民の会

福澤治朗さん

「市街地の活性化を目的に、空き店舗を活用し、子どもから高齢者まで市民が自由に使える場所が欲しい」と願い住民有志九人が、〇七年四月に会を立ち上げました。

まず手掛けたのが「歌声喫茶」。倉庫になっていた銀座マルトシ店舗跡を片付け、歌声喫茶実行委員会と連携し、同年九月、「歌声喫茶」を開催。百二十人が入場し大盛況でした。翌日はフォークグループや、高校の吹奏楽部が出演し、ミニ市民音楽祭で盛り上がりました。

「継続的にイベントをすれば、中心商店街に人は集まる」と自信を持った会員は、翌年、半年間、同じ空き店舗で、「市民広場」として、広く市民に開放し、自由に使ってもらいました。「広場」では、体操のグループや歌声サークルが練習したり、市民も立ち寄り、にぎわいを創出しました。

この「市民広場」こそ市民活動支援センター開設に向けた実践の場となり、市民活動推進会議との連携で、センター設置への道筋をつけたともいえます。

また、〇八年六月から十月まで「商店街に人を呼び込むきっかけづくり」にと、銀座アーケードで、日曜朝市を開催。近隣の農家が持ち込んだ野菜や果物、花を販売しました。福澤治朗さんは「売れ行きはまあまあでした」。

昨年十月の市民活動支援センターのオープンで、目的の一つは達成しましたが「今後も市民との交流を中心とした手づくりの中心市街地の活性化に取り組みたい」と福澤さん。

銀座商店街は老朽化したアーケードを撤去、三月にはおしゃれなイルミネーションが設置され、街は面目を一新します。会では日曜朝市の再開やセンターでの各種イベントを企画、参加できる会員を募集しています。

代　表・福澤治朗さん
事務局・駒ケ根市中央一六―一
電　話・八三―三五五八
会　員・九名

頑張らないで、ゆるい中でナマステ体操を

チーム・ナマステ

水曜日夜、銀座商店街の一角にあるこまがね市民活動支援センターには軽快な音楽に合わせ、ナマステ体操で、快い汗を流すグループがあります。九分間の体操が終わると、吹き出した汗をぬぐいながら、今度はおしゃべりで盛り上がります。

代表の小川まどかさんは「体操に来るのか、おしゃべりに集まるのか分かりませんね。小学生から五十代まで、同じようにしゃべり、笑っています」と。

「ナマステ」とはネパール語で「こんにちは」のあいさつ。〇四年にネパールに赴任したシニアボランティアが日本のラジオ体操版として、ネパール人の心情に合わせ、誰からも愛される国民体操として考案。ヨーガとネパールダンス、日本の新体道で構成しました。

三年前、飯島町で開催された伊那谷国際フェスティバルを機に「子どもから高齢者まで、だれでもでき、肩こりやダイエットにも効果がありそう」と、仲間を募り、チームを結成しました。

「みなこいフェスティバル」や「子ども祭り」にネパールの民俗衣装で出演し、昨年九月は東京日比谷公園で開いた「ネパールディフェスタ」にも参加しました。小学校にも出前し「子どもは友だちと一緒に体を動かすことが大好きと実感しました。子どもたちを対象に早い時間帯の教室を開きたい」と、意欲的です。

最年少の大森渚さん（小六）は「楽しい、汗をかいて、気持ちがいい」。看護大学生の宇佐美基子さんは「地域の人と交流できるので、毎回参加しています」。

最後に、小川さんは「体操は多くの人に異文化を知ってもらうための手法。ネパールを身近に感じ、異文化を体験することで、受け入れる器が広がるのでは。だれでも自由に、気軽に参加できます。要請があれば、どこにでも出前します」とメンバーを募集しています。

代　表・小川まどかさん
事務局・こまがね市民活動支援センター
電　話・八二―一一五〇
会　員・一〇名

市民活動支援センター ぱとな の紹介

なにをするところ？

- 市民による自発的な活動を支援します。
- 講座やセミナー等を開催します。
- 市民活動に必要な情報を提供します。
- 市民が気楽に相談でき、交流の拠点となります。

なにが使えるの？

ミーティングルーム、コピー機、印刷機、貸しロッカー、レターケースなどが利用できます。

開館は毎週火曜日～日曜日
午前十時～午後九時
ぜひ、お立ち寄りください。

ぱとなは、公設（市が施設、設備を設置）、民営（市民活動支援協会の運営）です。

運営費用は市よりの委託料・事業活動・寄付等でまかないます。

現在の登録団体数・二十四団体
募集中

「ぱとな」の運営にかかわるみなさん

（敬称略）

市民活動支援協会

会長・鈴木明
副会長・本並正直、山口久人、有賀和枝
事務局長・宮澤敏幸
事務局次長・片桐美登
理事・北原和雄、中坪宏明
監事・竹内滋一、堀勝福
幹事・北澤弘子、村上守伸、加藤道生、久保田満、堀千代美、須田秀枝、宮下学、加治木今、赤羽明人、小原茂幸、倉田正清、小出勇、下島聡、杉本雅史、中原茂之、堀内豊彦、守屋千里、湯沢たきゑ、菅沼久、赤須久三、宮澤孝彰、宮脇哲也、銀座商業協同組合

運営評議委員会（運営評価）

会長・小出勇
副会長・気賀澤徳義、高谷正憲
委員・北原勉、代田和美、桐生肇、浦野利彰、酒井幸夫、下島孝夫、湯澤英喜

＊なお両会とも、全員無報酬です。

ぱとな職員

宮澤敏幸（事務局長）、宮澤友子、宮崎邦男、大口国江（取材担当）

区の紹介①

「南割区」

五十鈴神社例祭を通じて、区民がひとつに

吉沢智束さん

西に中央アルプスのシンボル宝剣岳を望むのどかな田園地帯に雇用促進住宅を合わせ約四百戸が点在しています。

区内には特養「千寿園」「順天寮」などの福祉施設をはじめ、野球場、マレットゴルフ場など運動施設、市の昆虫に指定されたハッチョウトンボ公園もあります。全国に二カ所しかない青年海外協力隊訓練所では、訓練生が区内の農家等で所外活動に励んでいます。

春になると、通称「協力隊通り」(市道琴ヶ沢線)沿線は、住民たちが植えた数万株のスイセンの黄色や白の花で彩られます。

昨年は中南割の年番で五十鈴神社の例大祭を挙行しました。祭典委員長を務めた吉沢智束区長は「大不況の中、祭典費が徴収できるか心配しましたが、区民の理解、協力で順調に集まりました」と感謝。祭は区の総力を挙げて取り組む大事業。「区民が心を一つに心意気を示し、祭を通して、親ぼくと融和が図られました」と振り返りました。

また、同区では七〇歳以上の独居世帯を対象に、区費を半額にするという支援策を打ち出し、喜ばれました。区独自の工夫により、自治組合未加入者が少ないことも特色のひとつです。

同区は昭和三九年から、三度上穂沢川が荒れ、土石流被害が発生。昨年度、土砂災害危険地域に指定され、砂防堰堤整備に向けた測量が実施されました。

長年の区の懸案事項だっただけに、吉沢区長は「早期に事業化され、砂防工事が完成すれば、区の安全は確保されますが、政権交代もあり、どうなるか気になります」と話していました。

区役員

区　長・吉沢智束さん
副区長・会計・竹上俊隆さん
分館長・林博文さん
主　事・飯山武さん

連載「ぱとな」への想い

こまがね市民活動支援協会
会長　鈴木 明

「きらめき15」の願い

平成十六年に駒ヶ根市は、第一次「改革と創造へのまちづくり推進市民会議」を設置しました。時の三〇名の委員は二年間に渡って行政について、市民の感覚で論議をしました。

そのまとめを「報告書」として市長に提出いたしましたが、皆さんには充足感がないようでした。

それは、論議は尽くしたけれど言い放しで、具現化への手がかりが見えなかったからです。

二年間の付き合いで生まれてきた連帯感で、小さくても「報告書」の具現化に結び付く事をやりたいと言いつつ十七年三月に解散しました。

四月から第二次の会議が設置され、第一次から数名が委員になりました。その後間もなく宮澤敏幸氏から「こまがね市民活動推進会議」を設置しようとの提案が第一次のメンバーにありました。三十名中半数の十五名が賛同して、愛称（きらめき15）としてスタートしました。

本当の意味の「市民の、市民による、市民の為の施設」の提案をしようと言うことになり、行政のプロである市役所職員の応援も頂き「理想の施設」作りに向けて研究に入りました。

（次号へつづく）

○ご寄付を頂きました。
切手　一一、八八二円相当
匿名の方
ありがとうございました。

編集後記

日曜のある日。センターの窓ガラスを眺めながら、行ったり、来たりしている女性がいらっしゃいました。「中に入ってご覧になりませんか？」と声をかけると、遠慮がちに「いいんですか？」とゆっくりと展示物を見て回られました。一時間あまり、腰をかけながらたくさんの話をしていかれました。話の終わりに「そう、私は、自分の人生を悔いてはいないの。その時々に、私は一生懸命生きてきたから」となんだか「夢を持って生きなさい」と教えられたようなひと時でした。

『ぱとなだより』では、市民のみなさんにたくさんの情報をお知らせしたいと思います。市内十六自治区の情報や登録団体をはじめ、市内で市民活動をされているみなさんの活動の様子を順次編集し、掲載いたします。また、市民のみなさまからの情報やご意見もお寄せください。

【事務局長　宮澤】

創刊号　平成二十二年一月発行
発行者
こまがね市民活動支援センター